

平成 26 年度 第 2 回健康づくり推進協議会 報告

平成 26 年 9 月 25 日（木）

13 時 30 分～15 時

<進行>健康医療課長

1. 開会

健康づくり推進協議会は原則公開で開催。本日傍聴希望者はなし。

欠席者

- ・一般社団法人恵那医師会恵北医会 会長 丹羽 一善氏
- ・中津川市体育協会 会長 丸山 充信氏 会長代理 理事長 勝野 勅彦氏 出席
- ・中津川商工会議所 鷹見 直基氏

出席は過半数で協議会の要綱により会は成立。

2. 委嘱書交付

中津川市長より新委員へ委嘱書の交付

3. 市長あいさつ

平成 26 年度 27 年度健康づくり推進協議会の委員として 12 名の皆様に委嘱させていただきました。任期の期間中どうぞよろしくお願い致します。

健康は人生においてかかせない大事な分野です。健康なかつがわ 21 は平成 25 年度から取り組みを開始し、はっきりとした課題もでてきております。そうした課題を踏まえた中で、27 年度から中津川市の総合計画の施策の一部として健康づくり事業を位置づけており、「8 万人のヘルスアップ事業」と名前がついております。健康づくりにつきましては、ますますしっかりと取り組みをすすめていきたいと思っておりますので、その事業展開につきましても皆様のご意見を賜る所存でございます。

4. 会長・副会長選出

- ・会長 一般社団法人恵那医師会中津川医会 会長 中川 俊郎氏
- ・副会長 社会福祉法人中津川市社会福祉協議会 会長 加藤 出氏

5. 会長・副会長あいさつ

会長あいさつ

健康づくり協議会は、簡単に言うと 3 つの問題を含んでいる。ひとつは壮年期の死亡を減らす。もうひとつが健康寿命を延ばす。もうひとつは、子どもの生活の質を高め、子どものときからしっかりと教え込むことが健康づくりの大切なところだと思います。これから 2 年間、この会をよりよいかたちで進め、中津川市の市民みんなの健康の度合いを高めることができる協議会であればと思っています。

副会長あいさつ

健康増進のために微力でございますけれども、皆様と一緒に取り組みをして参りたいと考えております。よろしくお願い致します。

市長退席

6. 議事

議長：中川会長

1) 概要版「健康なかつがわ 21（第二次）」 報告者：健康医療課 和田

「健康なかつがわ 21（第二次）」計画の進捗状況（資料1）

各分野の項目別に左から策定時の数値、現状値、目標値、平成 26 年度の主な取り組みを表示。

<改善項目>

- ・がん検診の受診率の向上（胃がん・男女、肺がん・男性、大腸がん・男女）
- ・高血圧の割合の減少（男女）
- ・脂質異常症の減少（男性）
- ・メタボリックシンドローム予備軍・該当者の減少
- ・特定保健指導の終了率
- ・糖尿病有病者の増加の抑制
- ・糖尿病治療継続者の割合の増加
- ・糖尿病腎症による年間新規透析導入患者数の減少
- ・20 歳代女性のやせの人の割合の減少
- ・30～60 歳代男性の肥満者の割合の減少
- ・40～60 歳代女性の肥満者の割合の減少
- ・朝食欠食者の減少（5 歳児、中学生）
- ・朝食共食者の増加（中学生）
- ・運動習慣者の割合の増加（30～64 歳男性）
- ・生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の割合の減少（男性）
- ・妊娠中の飲酒をなくす
- ・妊娠中の喫煙をなくす
- ・60 歳で 24 歯以上の歯を有する人の割合の増加
- ・20 歳代における歯肉に炎症所見を有する人の割合の減少
- ・60 歳代における進行した歯周炎を有する人の割合の減少
- ・3 歳児健診でむし歯のない子の割合の増加
- ・12 歳児の一人平均むし歯数の減少
- ・自殺者数の減少

<質疑応答及び意見>

質問 1 中川会長

がん検診受診率は何に対する割合か。会社で検診を受けている場合も入っているか。入っていない場合、統計的に言うのは難しいのではないか。

回答 健康医療課 佐藤

がん検診の対象者は国の指示に基づいて推定対象者を出している。

推定対象者＝市町村の人口－（就業者数－農林水産業従事者数）であり、就業している人は対象から外れている。

回答 健康医療課 和田

健康なかつがわ21の目標に関しては国の健康日本21の指針に基づいて立てている。検診をどのようにすすめていくとよいかは先生方のご意見を伺いながらすすめていきたい。

質問2 丸山委員（代理 勝野氏）

数字が市民に公開されるが、出た数値を示しても市民は危機感を感じない。健診の受診率も社会保険の方がどれだけかということができれば数字は歴然とわかると思う。

回答 健康医療課 和田

社会保険の方の受診率は市でつかめていない現状がある。そういった意味での市の現状は今のところお示しすることができない。

中川会長

社会保険に入っている方以外の少ない方の健診をすることで、どれだけがんの死亡を減らせるかということ。ここに費用と時間をかける意義がどれだけあるかということにもなる。たとえば胃がんの検診でも胃カメラのほうが精度が高いが、日本の検診制度はバリウムの透視。この地域が先駆けて全員胃カメラにし、その費用を負担するから医療機関へ行って受けてくださいとしたほうが胃がんの発見率は高まると思う。費用がどれだけかかるかという問題は別として、そういったことも考えていったらいいのではないかなと思う。

2) 健康づくり事業の推進について

資料「県・同規模と比べてみた中津川市の位置」 報告者：健康医療課 矢頭

国保データベースシステムのデータ。国保データベースシステムは、国保連合会が保有する健診・医療・介護の情報を突合して統計情報を作成するシステムで、同じ基準で処理することで健康水準の把握や同規模保健者との比較が可能となっている。岐阜県では8月からシステムが公開された。中津川市と県内の同規模保険者2市と岐阜県の状況を比較した。

・死亡の状況

中津川市は脳血管、糖尿病、腎不全で亡くなっている方の割合が県と比較して高い。

・国民健康保険の状況

慢性腎不全、糖尿病、高血圧症にかかる医療費の総医療費に占める割合が県と比較して高い。

脳血管疾患や慢性腎臓病は生活習慣病が悪化することで発症するものが多い。市民の方が健康で生活することを妨げるばかりでなく、医療費や社会保障費の増大にもつながるものであり、予防可能といわれている生活習慣病の発症の予防、重症化予防に重点をおいて健康づくり事業を展開していく必要がある。

健診と医療費のデータは、特定健診がはじまってから保険者が被保険者の健康を守ることとで、中津川市で取得可能な国民健康保険加入者のデータだが、死亡については中津川市全体のデータがのっているので、中津川市の健康課題とみて、健康づくりの推進に努めていきたい。

健康づくり事業の推進について（資料２） 報告者：健康医療課 和田

現在の健康なかつがわ２１計画の取り組みをさらに強化し、健康増進を市民運動としていくことを目標に「８万人のヘルスアップ事業」を中津川市総合計画の中で計画している。

「８万人のヘルスアップ事業」の内容

- ・健康づくり条例を１２月に制定。健康都市宣言を２月合併記念式典でおこなう。
- ・健康情報の発信
- ・健康づくり取り組み隊への支援
- ・健康マイレージ制度

自主的な健康づくり活動を行うための動機づけとなる仕組み。健康づくり事業参加や健診受診でポイントを獲得、獲得したポイントを景品または寄付として使える。

- ・地域の健康づくりリーダー育成

関係機関と連携し、より多くの市民が健康づくり活動をおこなっていただくことを目標としているため、これ以外の活動についてご提案いただきたい。

<質疑応答及び意見>

発言１ 早川委員（中津川歯科医師会会長）

健康づくり条例は他でもつくられているか。また、内容について教えていただきたい。

回答 健康医療課長

市民の役割、行政の役割、事業者・関係団体等の役割を骨組みとしてつくっていきたいと考えている。市が中心となって市民とともに取り組んでいきたい。県のレベルでは心とからだ、食育、歯を含めた総合的な健康づくり条例を作っている団体も見受けられる。歯のところでは県下多くの団体が条例を作っている。そういったところを参考としながら検討している。

早川委員

歯科医師会としては、岐阜県の歯と口腔の健康条例が平成２４年度に成立している。口腔保健法の中で歯科保健推進に関し地方公共団体と協力して施策を投じるということで、岐阜県歯科医師会を筆頭に、県内では歯と口腔の健康づくり条例を制定していきたいということがある。この健康づくり条例、市でやられるものに対して抗うところは何もない。歯と口腔に関しては、歯科医師会のほうでもすすめていきたいと思っている。

発言２ 曾我委員（中津川市薬剤師会会長）

健康増進を強化するということで健康都市宣言、それに対しては大賛成ですし応援したいと思っている。

「県・同規模と比べてみた中津川市の位置」で中津川市のデータは岐阜県と比べて高いところが多い。医療費が高いから悪いとは一概に言えないが、総合的に中津川市の健康状況をどのようにみているか。

回答 健康医療課 矢頭

脳血管疾患による死亡でもどの年代の死亡が多いか等、掘り下げてみていかないとどこに課題があ

るかわからないが、まだ深く分析ができていない。同規模や県との比較ができたところなので、これから分析をすすめていく。

曾我委員

循環器、糖尿病などの重症化予防で医療機関への受診勧奨および受診継続のすすめとあるが、具体的にはどういうことをされているか。

健康医療課 矢頭

特定健診が始まってから国民健康保険の健診を受けていただいた方の結果のうち数値の高い方や受診勧奨値として判定を受けた方に、訪問や結果説明会で保健師が結果の説明をしながら結果をお返ししている。重点課題としておいているⅢ度高血圧の方や血糖値の高い方など合併症の進む可能性の高い方に対しては、地区の担当の保健師・栄養士が受診をすすめています。結果の説明をしている方は年間 2000 人から 2500 人程度。

曾我委員

薬局の窓口では、病院にかかられた方に限らず相談を受ける。全国的には、薬剤師会が病気にならない指導に取り組んでいるところがあり、たとえば窓口で脳血管の測定や、先進的なところでは血液の検査をし、医師への紹介までする。今後そういう方向へ動く可能性もあり、話を詰めていけると重症化の予防につながると思う。

発言 3 古橋委員（食生活改善推進協議会会長）

食生活改善推進協議会は食育の分野に取り組み、朝ごはんを食べる子や共食が増えている。今年度は、野菜をたくさんとりましょうというテーマで取り組み、健康福祉まつりでも取り入れたいと思っている。地域でも取り組んでいきたいと思い、中央公民館を利用して講習を行ったり、高齢者との取り組みも進めている。地元へ入っていけるのは食生活ではないかということで、一生懸命考えている。

発言 4 樋田委員（健康推進員会会長）

健康マイレージ制度に期待しているが、県や市町村で実施しているところはあるか。

回答 健康医療課 和田

ホームページなどで調べるとかなりやってみえるところがある。

樋田委員

禁煙に取り組んでおり、タバコを吸わない人には健康福祉祭りに 10 回来たくらいのポイントをつけてもらいたい。

発言 5 神谷委員（国民健康保険運営協議会代表）

市で把握できるのは国民健康保険に入っている人のデータになる。国保の人のデータは、国保の人のデータとわかるように示せば、もっとわかりやすくなると考える。

発言 6 三宅委員（恵那保健所健康増進課長）

岐阜県も健康プラン 21 に乗っ取ってすすめている。健診受診率が低いということだが、医療費を少なくするために健診受診率を上げるというのが県の課題でもあり中津川市の課題でもある。そんな中で、健康マイレージ制度に非常に期待をしており、成功すれば他の市でも検討していただきたいと考えている。

発言 7 勝野氏（体育協会会長代理）

中津川公園では、朝から多くの方がランニング、ウォーキングをされている。これからは参加できるイベントが求められる。健康まつりにもウォーキング大会の企画をいれたらのっていただけるか。また、ウォーキングでマイレージを貯めるという機会も作れると思っている。資金面もしっかり応援したい。

発言 8 渡邊委員（社会教育委員の会委員長）

社会教育の立場から、自発的に健康づくりに取り組むということで、健康推進員のように地区ごとに出席講座を利用した公民館講座を行う等の取り組みを広めてもらうことが大事ではないかと思う。食改も地域で取り組んでいるが、地域にないところもあるので、そういった地域の活動をやっていただければと思う。

健康マイレージ制度については景品等具体的になっているか。

回答 健康医療課 和田

来年度から始めたいということで今計画をたてている最中。景品については、例えば、ポイントを何ポイントか貯めると商品券に交換、または小学校の PTA 等に寄付をするという登録をしてくだされれば寄付をするイメージ。予算は市の予算で計上していく予定。

発言 9 加藤副会長

健康づくりには運動、栄養、休養の 3 つの要素が含まれる。8 万人のヘルスアップ事業に地域の健康づくりリーダーの養成とある。例えば栄養のところでは地域の食改さんがあるが、山口地域にはそういう組織がない。健康推進員も委嘱されて各地域で活動しているが、地域でどういうふうに活動するのかを反省する場がない。スポーツ指導員も市長さんが委嘱しているが、なかなか活動ができていない。健康づくりを推進する推進役が必要だが、そこが地域で欠けていると感じる。地域の中で健康は自分でつくることが大事ですし、それを支援する健康推進員、食改さん、スポーツ指導員の活動を後押ししながら相談に乗る行政の働きがあれば、かなり進むのではないかと思う。

発言 10 中川会長

健康づくりの推進に 8 万人のヘルスアップ事業とうたっている。国民健康保険加入者だけのデータではなくて、中津川市全体のデータでものを言うようにした方がいいと思う。そのほうが各企業で働かれる方たちも一緒になって参加して地域をあげて取り組む下地が育つと思う。企業の健診データは全体のデータであれば入手することができる。そういったデータでものを言わないと全体の取り組みというところが弱くなるんじゃないかと思っている。

<その他質問>

質問 1 加藤副会長

健康づくりの推進にあたって、市民全体の健康増進を考えるのであれば、市役所はどの課も市民が相手なので市役所全体で検討すると思うが、そういった検討をされたうえでの計画か。

回答 健康福祉部部長

健康づくり事業は、全庁あげて取り組む事業。文化スポーツ部はスポーツの振興ということで大変関係が深いので、特に打ち合わせをしている。各部長にも来年の予算を作るときには、それぞれの部でできる健康づくりを考えてほしいと依頼している。庁内の関係機関の会議も設けまして、関係する課を集め、打ち合わせをしながら進めていく方針。

質問 2 加藤副会長

企業にも保健師が配置されているが、企業の保健師と行政の保健師との連携はどうなっているか。

回答 健康医療課 佐藤

地域職域会議を年1回おこなっている。今年度は恵那保健所で恵那市と中津川市合同で行う予定。中津川市だと三菱電機、王子エフテックス、富士通テンの健康管理部の職員、恵那労働基準監督所、恵那医師会の中に入っている産業保健センターの管理者、協会健保岐阜支部の保健師に来ていただき、企業の健康管理に関する情報交換を行っている。中津川市の健康課題を話し、それに向けて勤めている若い方の健康を気をつけていただくように一緒に考えている。

中川会長

今日委員の方々からいただいたご意見を参考にして、この計画をさらに推進していただくようによろしく願い致します。また次の協議会でこれだけ進んだといういい結果をお示しいただけることと思います。本日はありがとうございました。

7. その他

今回の協議会は、市の公式ホームページに掲載させていただく予定。

8. 閉会

健康医療課長